発表番号　25	高松市立下笠居小学校	教諭	品地　沙由理

居場所があり、安心感のある学級づくりについて

－声を出すことを通して子どもたちの自尊感情を高め、主体性を育てる－

話すことに抵抗のある児童が多い、自尊感情の低さという学級の課題に対し、自尊感情を高めるとともに、居場所や安心感のある学級づくり、児童の主体的な活動を目指し、授業や学校生活の中で日常的に声に出す活動を積極的に取り入れて実践した。

1　実践の具体

①　声を出す機会や自分の意見を表出する場を増やす取組

国語の音読単元をきっかけに、めあてやまとめを読む、朝の会で暗唱する時間を設けるなど、生活の中に、読むことや暗唱する機会を意図的に増やし、声を出させるようにした。声が出せるようになったことを数値として自覚させるための大声大会も実施した。また、図工では、造形的視点を根拠に作品について自由に語れるようになってほしいとの思いから鑑賞教材を扱った。

②　主体的な活動を支え、自信をもたせる取組

自信をもたせるために、児童発案の活動を積極的に行った。係り活動で運営力を高めたことで自信をつけ、季節のイベントや校内でのあいさつ運動に活動を広げた。運営力に加え、企画力も高まっていった。

2　実践の成果 と 今後の方向性

何かと声を出す活動を取り入れたことで、自信・自尊感情の高まりにつながった。言い間違えやタイミングがずれても気にしない雰囲気が安心感に、失敗しても大丈夫という風土が主体的な活動になり、学級内での居場所へとサイクルが出来上がった。小さかった声が大きくなり、学習にも前向きになった。不登校傾向の児童の欠席も激減した。今後は、児童が培った力を継続できるように、子どもたちが発信する取組を学校全体、地域へと広げていきたい。本校は、小規模校でなかなか大勢を前にする機会がない。そのため、より自分の思いを表現できる場として、ICT を活用した実践を考えていきたい。